

キョン 本県接近



249

小学校高学年向け 年組

茨城で目撃、県境農家警戒

千葉県内で大繁殖し、県をまたいだ生息地域の拡大が懸念されている小型のシカ「キョン」。特定外来生物として近年は茨城県内で4件の目撃情報が出ている。本県ではまだ見つかったことはないが、筑西市では生体1頭が確認されるなど確実に本県に接近。県境の農家も「侵入されれば家庭菜園までやられる」と警戒を強めており、県は情報収集に力を入れている。

特定外来生物

生息域拡大に懸念

問題視されるキョンは1980年代に千葉県勝浦市で閉鎖された観光施設から逃げ出し、房総半島などで繁殖している個体。現在は



千葉県で大繁殖し、本県への生息地域拡大が懸念されるキョン（千葉県提供）

千葉県だけでも推計で約8万6千頭。繁殖力があり、農作物が荒らされる上、鳴き声も不気味だという。千葉県内では毎年1万頭前後の駆除が進む。当初は「利根川を越えて茨城には来ない」との推測もあったが、17年に神栖市、2022年に石岡市の筑波山、23年に筑西市と下妻市でそれぞれオス1頭が確認された。筑西市の個体は国道50号の南側、野殿地区で見つかった。本県の県境から10キロの距離だ。



茨城県内のキョンの目撃情報

- 1 茨城県神栖市太田・常陸川大橋（2017年5月）車にひかれた死骸
- 2 茨城県石岡市八郷地区・筑波山中（2022年12月）センサーカメラで撮影
- 3 茨城県筑西市野殿・大谷川堤防（2023年9月）河川事務所が撮影
- 4 茨城県下妻市唐崎（2023年12月）車にひかれた死骸

てきている可能性は高い」と指摘。群れでの繁殖、定着は認められず「流入の初期段階」との認識を示す。ただ、メロンや干し芋用

のサツマイモなどが特産の茨城県では警戒を強める。昨年5月に報奨金を設定し、1頭当たりの駆除で異例の3万円、目撃情報の提供にも前例のない2千円の拠出を決めた。これらの施策は住民の注目も集め、昨年の1年間で寄せられた情報は約50件。タヌキやハクビシンと間違えるケースがほとんどだったが、飯村課長補佐は「住民への周知は進んだ」と効果を実感す

る。温暖化などの影響もあり、近い将来、キョンが本県に到達する可能性は低くない。栃木県東環境森林事務所でも「警戒はして情報があつてこそ対応ができるので、写真やドローン、録音などができたら、すぐに連絡がほしい」と話す。

県境まで1キロの真岡市南高岡、兼業農家高波一成さん（64）は「キョンが侵入してきたら露地野菜は家庭菜園のものも含めて食べられ、イチゴも狙われる。電気柵も背の高いシカ用に変わないと」と困惑の表情を見せた。

キョン 中国南部や台湾を原産とする中型犬ほどの大きさのシカ。外来種として国内では千葉県内や伊豆大島で野生化、繁殖する。2007年に特定外来生物に指定された。

2025年1月7日付・下野新聞1面

設問

【1】見出しを四つ書き抜きましょう。

【2】キョンは何の仲間、いつ、どのような流れで、どこに、何頭くらい繁殖していると考えられていますか。本文から読み取りましょう。

【3】キョンが繁殖すると何が問題なのでしょうか。本文から読み取りましょう。

【4】もっとも栃木県に近いのは、いつ、どこでの目撃情報でしょうか。地図から読み取りましょう。

【5】茨城県ではどのような対策をとっていますか。本文から読み取りましょう。

【6】栃木県には他にどんな外来生物が入ってきて、どのような問題を引き起こしているのでしょうか。栃木県のホームページ（https://www.pref.tochigi.lg.jp/d04/gairai_priority.html）から調べてみましょう。